

7月の県内景況は、依然として低調に推移。 景気の低迷が感じられ、不安が募る。

情報連絡員による平成28年7月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は10.3%（前月比-2.0）となっており、「横這い」は36.3%（同+3.0）、「低調」とするところが53.4%（同+1.0）、業界全体の「景況感DI」は-43.1%（同-1.0）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「資金繰り」の2項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造、卸売業、サービス業、建設業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、17.2%（前月比-3.8%）と減少しております（やや好転の回答10件）（製造業6、非製造業4）。また、変わらないが、48.3%（前月比-4.4）と減少しております。やや悪化、悪化の見込みは、34.5%（前月比+8.2）と増加しております。

平成28年7月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率96.7%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食品製造	-14.29	-57.14	0.00	0.00	0.00	-28.57	-28.57	-28.57	0.00	-28.57	-28.57	-42.86
繊維製品製造	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-50.00	0.00
木材製品製造	50.00	-25.00	-25.00	-25.00	0.00	-50.00	0.00	-50.00	0.00	-25.00	-25.00	-75.00
鉄工機械製造	-25.00	-50.00	0.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00	-25.00	0.00	-50.00	-50.00	-50.00
その他の製造	0.00	-42.86	0.00	14.29	14.29	-28.57	-14.29	0.00	-14.29	0.00	-28.57	-28.57
卸売業	0.00	-50.00	-25.00	0.00	-50.00	-50.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00
小売業	0.00	-33.33	-11.11	-11.11	-11.11	-44.44	-22.22	-22.22	-11.11	-66.67	-22.22	-33.33
商店街	-16.67	-66.67	-33.33	-16.67	0.00	-33.33	0.00	-33.33	0.00	-16.67	0.00	-50.00
サービス業	28.57	-14.29	14.29	0.00	-14.29	-42.86	0.00	-14.29	14.29	0.00	-14.29	-28.57
建設業	-40.00	-20.00	0.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00
運輸業	0.00	-100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-33.33	-33.33	-66.67	-33.33	-33.33

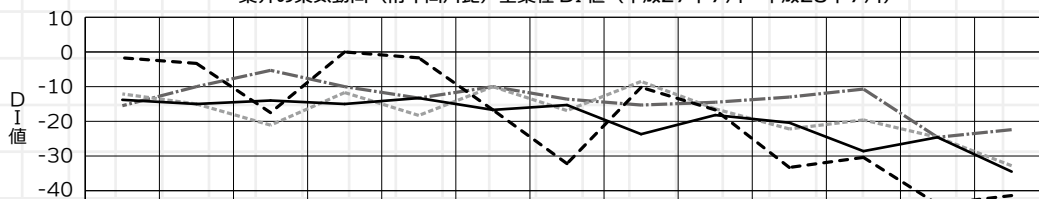
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- 曇り -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年7月~平成28年7月）



— 業界の景況
- - - 売上高
..... 収益状況
- · - · 資金繰り

	平成27年7月	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月
業界の景況	-13.8	-15.0	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5
売上高	-1.7	-3.3	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4
収益状況	-12.1	-15.0	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8
資金繰り	-15.5	-10.0	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4

食料品製造業

<漬物>

県内景況の悪化が、個人消費の停滞を招いている。そのため、高級品が売れず、比較的安価なアイテムが増えてきている。

<味噌醤油>

海外依存の醤油原料がやや値下がり傾向だが、味噌用加工用米原料の一部が7月より在庫不足による値上げを発表したことにより、味噌・醤油ともに出荷量は伸びず、依然として低迷。組合員の経営状況は厳しい状況である。

<菓子>

夏場の閑散期に入っている。取扱製品が生もののため、特に気を遣う時期に入り、製造・在庫を調整している。

<酒造>

夏は日本酒低迷期であるが、前年対比でも100%を越え、純米吟醸を中心に売上げを伸ばしている。

<食品団地>

今月も原油価格が少しずつ上がり始めている。消費についても季節商品の売上が伸びず、生産・在庫調整が難しい状況である。また、雇用においても改善が見られない状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

秋冬物受注の第1回目の納品で7月は忙しかったが、猛暑の影響なのか秋冬物の受注が伸びず今後が心配である。

木材・木製品製造業

<製材業>

丸太の出材が減少していることから、価格は徐々に上昇しており、昨年より一段と高い水準になっている。しかし、製品の荷動きは地元工務店の受注がリフォーム中心のため低調で、需要の先行きは不透明である。

<外材輸入>

製品需要が低迷する中、8月旧盆休みを控え市場に買い意欲はなく、荷動きは低調のまま推移している。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

紙器業界は、原発事故以来、依然として風評被害が続いている。景気低迷等から消費者のマインドが大きく低下し、我々小規模事業者に大きな影響を与えている。これから取引先に対しても今まで以上に優れた情報を整理し、新製品の開発を図っていく。

印刷業

<印刷>

復興需要も落ち着いてきており、各社とも売上状況は芳しくないようである。今後も低迷が続くような見通しである。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

- | | | |
|------------|-------|-------|
| 1. 当月売上数量 | 前月比 | 約8%減 |
| 2. " | 昨年同月比 | 約28%減 |
| 3. 本年度売上数量 | 昨年対比 | 約26%減 |
| 4. 原因・現状 | | |

昨年の7月は住宅除染工事で出荷が多かったが、今年は工事が終了したため激減した。

<生コン>

平成28年7月の組合員生コン出荷数量は、171,069m³と対前年同月比5.0%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比2.6%減、官公需が16.0%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 2.6%減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 55.2%増 病院、福島駅前ホテル新築工事、工場工事等

<白河地区> 16.6%増 白河物流倉庫、白河データセンター、化学工場新設工事等

<相双地区> 11.8%増 民間企業単身寮、第一原発事務棟整備建設工事、原発保安対策工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 29.7%減 郵便処理施設、マンション、物流センター新築工事等

<いわき地区> 42.1%減 製紙工場、物流センター、マンション新築工事等

<会津地区> 0.9%減 会津広域連合集出荷場工事、老人福祉施設建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 16.0%減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 2.1%増 腰巡トンネル、県警本部庁舎建築工事、中央道桑折高架橋工事等

<いわき地区> 14.6%増 港湾災害復旧、埠頭埋立造成工事、病院建築工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 12.9%減 西部第一工業団地造成工事、三森橋梁下部工事等

<白河地区> 21.2%減 ひらた清風中学校工事、西郷村村民プール建設工事等

<相双地区> 33.4%減 減容化施設、廃棄物処理施設整備工事、トンネル、海岸復旧工事等

<会津地区> 19.0%減 滝沢浄水場工事、復興公営住宅整備工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

プラント設備関連業界は、売上高が前月比で21%減となり、前年同月比においても33%の減と先月に続き低調な取引となった。前年累計比でも8%減と先行きに不安感含みの状態となっている。また、見積り引き合い件数の減少も今後の不安感含みの要因である。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

ここ数年、好調であった建築資材関連が最近になってやや陰りが見られるようになってきた。6,7月の売上が前年比を下回る企業も見受けられる。一方、仕入れ価格については、円高等の影響もあって値下がり基調。今後は、復興需要に頼るばかりではなく、個人住宅のリフォーム事業者への納品等、新たな顧客獲得に向けた動きが必要。また、人手不足が続いており、特に配送部門では人が集まらなく深刻である。こういう時期だけに社員教育の重要性を感じる。折角、採用しても戦力にならず、定着しないといったケースが見受けられる。

(県北地区)

当組合の販売品目は米穀のみなので、平成27年秋に収穫した米穀を主に秋から初夏にかけて販売している。このため、夏から秋の米穀の収穫時期までは販売数

量が激減する。なお、米穀の販売単価は昨年より上がっているが、取扱数量が減ったため売上高は増えない。

<再生資源>

古紙市場では、夏場の天候要因などで市中の回収が減少基調である。国内消費も前年同時期に比べ減少している。若干、上向き基調のアジア向け輸出に期待するところである。鉄くず市場は、国内需要の推移と電炉メーカーの夏休みを踏まえ様子見ムードである。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

客数が減少しており、顧客流出に危機感を覚える。売上が良いのは、高額商品が売れたからにすぎない。

<石油>

元売各社の仕切価格が僅かに下がる中、小売価格も下げ傾向となった。このような中、県内の一部地域では、依然として価格競争が収まらず不当廉売とも捉えられる価格も散見されている。夏休みの需要増が見込めるものの、収益増には程遠い状況が続いている。

<水産物>

7月30日の土曜日の日は天候も良く、うなぎの売上は前年より増加となった。

<青果>

前月からの状況は変わらず、単価の高騰は部分的にあるものの、入荷数の減少で取扱の増加には繋がらなかった。季節柄、家庭菜園での収穫が始まり小売店での販売に影響が出た。桃の取扱も始まったが、昨年に比べ単価は高騰、お盆の贈答用に取扱が増加することを期待したい。

<家電>

猛暑日が続く西日本ではエアコンの動きは非常に良い。東北地方は動きが鈍い。今後の動きに期待したい。

商店街

<福島市>

駅前通りのイベント“ナツフェス”が始まり、月を通して各種イベントが開催され、集客という点においては活況を呈した。しかし、それが商店街各店において、経済的な利益をもたらしたかという点、残念な答えとなってしまふ。イベントなどで街が賑やかになればなるほど、却って通り沿いの既存店では来店客が減少するというのが現実。

<郡山市>

今月は、大きなイベントもなく平常時の月だったので、来街者数の目安となる商店街共同駐車場の利用数は、前年比、前月比ともに減少気味であった。ただ、今回はポケモンGOの配信が始まり、通りの一部には人の群れができていたため来街者数の増加にはつながったような気がする。しかし、それは一時的なことで平常時は相変わらず伸び悩んでいるため、今後も減少傾向は続いていくと思われる。

<南相馬市>

お盆期間中は盆踊りなどの連合組織での取り組みもあり、かなりの賑わいが予想される。中元ギフト、お盆返礼品のギフトも活発に動いているよう。

<会津若松市>

夏物セールに入り、まずまずの出足だった。しかしながら、暑い日が続いたことで日中の人出は少なかった。アーケードが無くなったため各店、日差し対策に苦心しているようである。

<いわき市>

梅雨明けまでは、雨が少なく、気温は平年並みの天候が続いたが、物販のセールは芳しくない様子。梅雨明けからは、暑い日が続く、商店街ではなく、大型店

で涼しく買い物をされるお客様が年々増えている感じがする。昼のランチタイムを過ぎると歩く人もまばらになる。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

九州復興応援や北陸、北海道への観光が増加しているせいか夏の観光客入込が例年より低調化している。また、高温注意報が高齢者や子どもたちの屋外体験を控えさせている。

<美容業>

県内全体の動向は、気候に左右され今月は売上が不調となった。この時期の技術売り上げは、暑い日が続く髪毛の長さが気になりカットする方が多い時期であるが、梅雨明けの遅れが影響した。その一方で縮毛矯正する人が多かった。

<理容業>

7月は1年の中でも12月に次いで忙しい時期であるが、期待していた程の収益増には至らなかった。これは各方部とも同様である。安売店が影響しているとの声が多く聞かれる。たしかに最近では安売店の乱立は業界にとっても大きな問題である。価値感を高め消費者に信頼されるよう組合を上げて事業に取り組んでいるが、景気が今ひとつ回復していないため厳しい状況は続くと思われる。

<一般廃棄物収集運搬>

通常業務については5月より月実績でほぼ同額の売り上げで推移している。震災関連事業は、4月、5月で業務発注の変動があり苦慮していたが、7月から需要が高まり、3年間の業務契約ができたことから安定してくると思われる。産業廃棄物に関しては依然として排出量は震災前の水準には届かず、しばらくは増加することはないと思われる。しかしながら相馬港においての水産物の本格操業がへ向けて動き出したこともあり少しずつ引き合いが出始めた。

建設業

<建設業>

(県南地区)

新たな除染業務(事業所、道路、運搬業務等)の発注があり、年内に完了する見込み。土木工事及び建築工事が共に減少しており、特に建築工物の物件が一段落して主だった物件が少なくなっている。

<管工事>

前月比で給水・排水設備申請とも増加。一方で、前年同月累計対比では、給水・排水設備申請とも減少している。

<専門工事>

元請の入札状況は急激に悪化しており、職人の確保については現在も将来も確保が難しい状況になっている。行政ではそれを直接コントロールはせずに成り行き任せで事態の収束を見守っている状態にあり、上下からはさまれた急激な変化にどうやって対処していくかが私たちの喫緊の課題となってくる。せめて震災前の状態に収まることを願ってやまないが、現状、そんなに先行きは甘くない様である。

運輸業

<トラック運送>

(県北地区)

7月は特段変化なく、横ばいで推移した。8月はお盆休暇等により例年売上は低下する。

<ハイヤータクシー>

低調基調が続いており、厳しい状況が続いている。